

講話の感想を聞き、お陰で良きご用納めの日となった

今月始めに県北のある障害者相談支援センターから声がかかり、「きょうだい支援～きょうだいの気持ち、支援者としてできること～」をテーマに講話してきたが、昨夜、受講して下さった方々の感想（一部）が届いた。

【 <家族>

- ・兄弟への接し方について考えさせられました。たくさんのお話を聞けて良かったです。HPの方ものぞいてみようと思います。また、先生の講演を開いてほしいです。
- ・子供が幼少の頃に聴きたかった、それほど心動かされたお話しでした。
- ・とてもすばらしいお話を聴け、良かったです。今後、今日の話の頭に置きながら、子どもたちとしっかりコミュニケーションを取っていきたいと思います。
- ・子どもが小さい頃は、大変な事、不安、心配とありました。多くのプロの方々、人と関わってきて、方向性は様々に変化し今に至ります。でも、今、方向性は間違っていなかったと改めて感じました。前進あるのみです。心にジーンとくる内容でした。
- ・まだまだ障害者を一人の人間として見てくれる人は少ないと感じます。毎日毎日、「子どもさんが……トラブルが……」、「お母さん、謝りに来ていただけませんか」と連絡があり、親として子供にどう接したら良いのか、どう思ってあげたら良いのか分からなくなっています。しかし、自分の気持ちを切り替え、大きなボールになれるよう努力しようと思いました。

<支援者>

- ・日々、何を大切に思って生活していけば良いのか、非常にシンプルかつ重要なことを教えて頂きました。非常に心に残る研修会でした。ありがとうございました。
- ・仕付け糸の話、とてもうなづけました。目線を変えて支援していきたいと思います。
- ・とても良い話で、子育ての中での自分の姿も振り返ってみる事ができ、仕事に対する姿勢・対応にもものすごく勉強にもなり、共感しました。スタッフへもきちんと復命したいと思います。
- ・障害のある・ないは関係ないんだということ事が伝わりました。すべての子育てに共通する内容でした。
- ・「当然の事を当然のように行う」、支援者という立場以前に人として親としてとても考えさせられた時間でした。自分自身のあるべき姿を見つめ直して行こうと思います。】

こうした感想を聞くことができ、阿部節（？）は今年も大丈夫だったようで、お陰で良きご用納めの日となった、(^_^)~